

KAJIMAROAD
CSR 報告書

2012

Message



代表取締役社長

滝田 裕久

昨年発生しました東日本大震災から1年が経ち、震災復興が本格化する中、今回の震災では、緊急輸送などにおける道路の重要性が改めて見直され、道路が「命の道」として大変大きな意義を持つ社会基盤であるということが改めて証明されました。

被災された地域の方々が生活に不自由されないよう、当社は道路を中心とした社会基盤を整備する一員として、技術を駆使して復興支援に全力で取り組んでまいりたいと考えております。

当社のCSR活動方針は、鹿島グループ企業行動規範の遵守を大前提とし、「お客様本位」と「品質本位」を第一に道路建設を中心とした事業を展開しています。また、鹿島グループのCSR5つの基本要素に基づき、コンプライアンスの徹底や安全活動、地域貢献や環境負荷の低減など様々な活動に積極的に取り組んでおります。

これからも鹿島グループの一員として社会に貢献できる企業を目指し、CSR活動を推進してまいりますので、一層のご理解とご支援をいただくと共に皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2012年 CSR報告書 目次

- 02 社長メッセージ
- 03 CSRの取り組み 基本方針

特集

- 04 東日本大震災への取り組み
- 08 鹿島道路の情報化施工の歩み

5つの基本姿勢

- 10 鹿島グループが実践するCSR
- 12 コンプライアンスの徹底
- 14 働くことに誇りを持てる会社
- 16 地球環境保全と環境創造
- 18 地域社会との共生
- 20 ステークホルダーとのコミュニケーション

- 22 第三者意見
- 23 会社データ

Mission

新しい価値創造に挑戦し、
人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する

Vision

道からはじまる未来創造企業

CSRの取り組み 基本方針

品質方針

お客様と社会の要求を把握し、品質と信頼を追求するとともに、全ての活動における仕事の質を向上させて、お客様の満足と安心いただける製品・サービスを提供する。

行動指針

1. お客様志向(思考)
2. 革新への積極的取り組み
3. 継続的レベルアップ
4. 実践の容易化

環境方針

鹿島道路は、社会資本整備を担う建設業の一員として、人と地球の豊かで快適な環境作りに重要な役割と責任を担っている。この使命を果たすことにより、地球環境保全と経済活動が両立する持続的発展が可能な社会の実現に貢献する。

行動指針

1. 汚染予防と環境負荷の低減
2. 環境保全に関わる技術開発の推進
3. 環境関連法規及び当社が同意した要求等の順守
4. 情報開示を含めた社内外のコミュニケーション
5. 環境マネジメントシステムの効果的な運用と継続的改善

安全衛生方針

人命尊重の安全衛生理念に基づき、法規制等を遵守し、安全衛生活動を積極的に推進して、労働災害の防止及び安全で快適な職場環境の形成を図り、生産性の向上に資するとともに社会の信頼確保と会社の永続的な発展を目指す。

行動指針

1. 労働安全衛生に関する法規制及び社内規程の遵守
2. 協力会社と一体による安全衛生活動の推進
3. 安全施工サイクルの運用による災害・事故防止
4. ワークライフバランスの推進と安全な職場環境の形成

編集方針

「鹿島道路CSR報告書2012」は、特集として、昨年発生した東日本大震災に対する復興に向けた取り組みや、現在当社で推進している情報化施工について取り上げました。また、日頃から社員のCSR活動に対する取り組みをステークホルダーの皆様にご理解していただけるよう発行いたしました。編集にあたっては、23部署27名からなる「CSRワーキンググループ」を中心として、本支店各部署・各現場の多くの社員が関わり作成いたしました。この報告書によって、当社のCSR活動を対外的に発信し、ステークホルダーの皆様への信頼性を高めてまいりたいと思います。今後も更に信頼される企業を目指してまいりますので、同封しておりますアンケートに皆様からの忌憚のないご意見をお聞かせください。

報告対象期間	2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)当該年度以外の内容も一部に掲載しています。
報告書対象組織	原則として鹿島道路株式会社単体の国内外全部門を対象としています。
発行時期	2012年8月
インターネットによる情報提供	【鹿島道路ホームページ】 http://www.kajimaroad.co.jp 【CSRの取り組み】 http://www.kajimaroad.co.jp/corp/csr/index.html

東日本大震災への取り組み

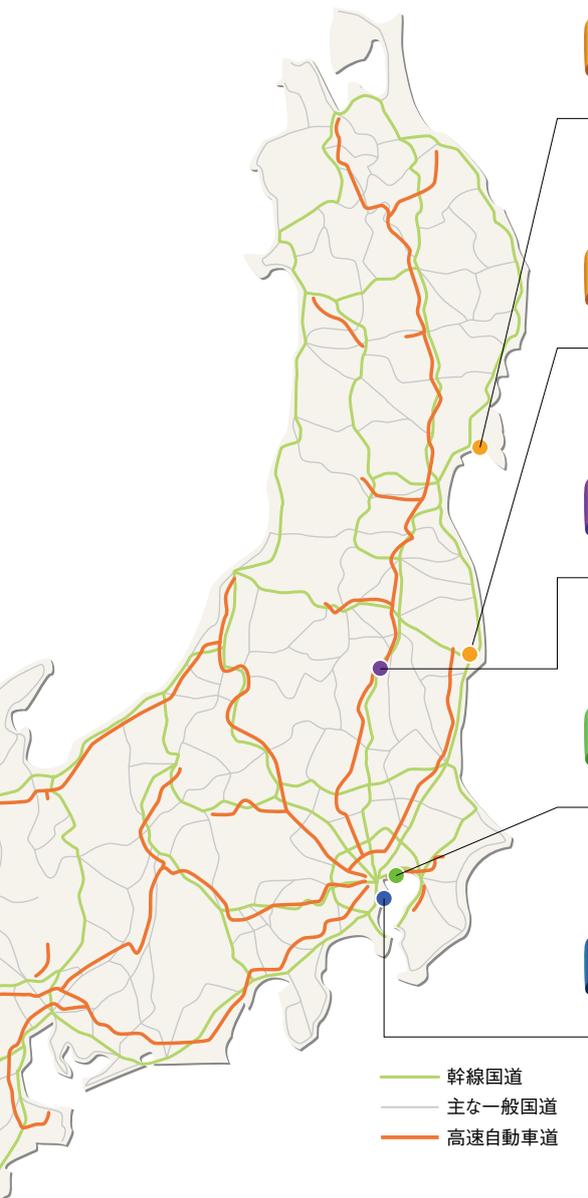
道路会社としての使命

東日本大震災が発生して1年が経過しました。

当社は、震災発生直後から震災対策本部を設置し、緊急復旧工事などに対応しております。現在も東北地方を管轄する北日本支店をはじめ各地において、復旧・復興に向けて全社を挙げて懸命に取り組んでおります。今後も当社の技術力や施工力を活かして、被災地が一日でも早く復興できますよう、安全で安心な社会資本整備に尽力してまいります。

CSR報告書では復旧・復興に向けて対応しているいくつかの現場について、担当者の震災復旧に対する取り組みや思いを取り上げました。

鹿島道路の復興への対応



<p>北日本支店</p> 	<p>工事名 臨港道路釜北線災害復旧(その2)工事 施工場所 石巻港石巻市三河町地内 工期 2011.12.12~2012.5.31 工事内容 舗装版撤去 A=8291m² 下層路盤・上層路盤・基層・表層 A=8291m²</p>
<p>北日本支店</p> 	<p>工事名 磐越自動車道 いわきJCT~小野間舗装災害応急復旧工事(その2) 施工場所 いわき市内郷宮町~田村郡小野町地内 工期 2011.4.7~2011.12.7 工事内容 切削オーバーレイ A=4,500m² クラック補修 L=1,235m</p>
<p>関東支店</p> 	<p>工事名 東北自動車道 白河地区災害応急復旧工事 施工場所 東北自動車道 那須IC~白河IC(上り線) 工期 2011.03.17~2011.5.31 工事内容 オーバーレイ工 t=5cm 1209m² レベリング工 t=20cm(平均) 250t 切削工 起終点部</p>
<p>東京支店</p> 	<p>工事名 ペイシティ浦安震災本格復旧工事 施工場所 千葉県浦安市日の出1丁目 工期 2011.11.21~2013.3.31 工事内容 排水工事 2,540m 舗装工事 14,700m² ILB舗装工事 4,140m² 縁石工事 4,100m ブロック積工事 950m(他)</p>
<p>横浜支店</p> 	<p>工事名 震災応急復旧工事(その3) 施工場所 川崎市川崎区扇島 工期 2011.03.11~2011.5.31 工事内容 舗装打換工 3,142m² 目地補修工 408m 路面標示工 855m(他)</p>

主要道路早期復旧 不足する資材やダンプの手配に奮闘

臨港道路釜北線災害復旧（その2）工事



着工前



完成

臨港道路釜北線は石巻港に面した女川町、気仙沼市の被災地へと続く道路であり、石巻においても一次仮置き場から災害廃棄物処理場へ続く主要道路でもあり、早期に復旧する必要がありました。着工前は地震と津波の影響で4車線道路が2車線道路になってしまう大変悲惨な状況でした。

今回の施工にあたり、宮城県職員の方々は震災対応により繁忙を極め、他県から職員が応援に来られるなど、大変な状況の中での協議となりました。また、県内は多くの復旧工事がなされており、施工に使用する二次製品の製造が間に合わない状況でした。更に、大型ダンプも不足してしまっていたため他県から補うことに努めました。また合材の手配も混み合いましたが、河南合材製造所と協力し合い、工程の調整に苦勞しながらの施工となりましたが、無事施工も完了しました。一日も早い復旧、復興のために安全に利用されることを願います。



現場代理人・監理技術者
板垣 吉成

施工箇所の横を緊急通行車両等行き交う中、段差修正に緊張の連続

磐越自動車道 いわきJCT～小野間舗装災害応急復旧工事（その2）



現場代理人
大橋 弘司

緊急物資や資機材の輸送にはどうしても磐越自動車道の緊急復旧が必要でした。当社は、東日本高速道路株式会社より要請を受け、磐越自動車道いわき中央IC～小野IC間の段差修正を担当しました。被害はボックスカルバートや橋梁の前後に段差が生じるなど全部で28か所あり、9日間アスファルト合材を使って段差を埋める作業を続けました。

施工中、道路は供用中であり、交通量も多く、安全には特に気を配り作業しました。また、他工区との調整や材料及び資機材の搬入に苦勞するなど緊張の連続でしたが、無事作業を終了しました。



施工中



施工中

関東支店

幹線道路 素早い復旧で緊急通行車両の通行に貢献

東北自動車道 白河地区災害応急復旧工事



現場代理人

丸屋 誠一

震災により段差やひび割れ等が那須管理管内の至るところに発生し、緊急車両の輸送用として、安全な走行性を確保するため早急な復旧を必要としました。

施工箇所の範囲や補修内容を調査するも、発注者や国、地方自治体等の方針が急変し再調査となってしまったり、施工時期も情報が錯綜し、施工範囲や方法を決定するのに時間を要したりと、施工班や予定に目途が立たず苦勞しました。

しかし、今思えば何百年に一度の大変な出来事。簡単に決まることではなかったと考えさせる思いがっぱいです。

この震災復旧を終えて緊急通行車両の台数や自衛隊、警察、その他救援物資の運搬車両の多さに事の重大性を痛感しました。このような経験をさせてもらい感謝するとともに、この復旧工事で少しは被災した人達に貢献できたのではないかと思います。



PICK UP!

東日本高速道路株式会社より感謝状

同工事において、震災直後の混乱した状況の中、直ちに現場に駆けつけ、迅速に施工体制を確立し、資機材の確保に努め、安全に施工を行ったことによって、東日本高速道路株式会社から感謝状をいただきました。



東京支店

市民が安心して暮らせる街を整備 液状化現象との闘い

ベイシティ浦安震災本格復旧工事



現場代理人・監理技術者

廣田 和己

本格復旧工事現場となるベイシティ浦安では、液状化現象による地盤の隆起・陥没が多く見られ、当社は震災の翌々日より液状化土の撤去、仮排水のためのポンプの設置等を行ってきました。その後、仮排水管の埋設、路面の凹凸部の仮復旧等を行い、現在は本復旧工事を施工しています。工事を進める上で、隣接している教育機関の通学路を確保するため、工区を分け工事を行う様に計画し、駐車場工事に関しては、移動場所を確保するため、浦安市を通して、近隣にある企業庁の土地を仮設駐車場として借用し、現場は3工区に分けて施工を進めています。マンション理事会と定期的に打合せを行い、1ヶ月に1回開催される総会で、進捗状況や、今後の工程・依頼事項等を提案し、随時承認をいただきながら施工しています。

今後とも、住民の皆様や理事会とコミュニケーションを良く取りながら、支店・営業所・協力会社と一体となり無事引き渡しをするまで気を緩めることなく、復旧に向けて努力してまいります。

首都高速湾岸線 震災当日からわずか36時間での交通開放
 団結力を発揮 震災応急復旧工事(その3)



首都高速道路株式会社からの感謝状



現場代理人
 竹内 一平

着工前の状況は、地震の影響による液状化現象で地盤沈下が発生、道路に20cm程度の段差が各所で生じ通行不可能な壊滅の状態でした。人員や資機材の段取りを取ろうにも電話はつながらず、また停電、交通渋滞、他の緊急復旧工事等の対応で手配が思うようにいかず苦勞しました。限られた人員、資機材で、今までの経験や知識を基に支店、営業所が中心となり、現地で発注者、協力業者と復旧方法を決定しながらの施工でした。前例のない状況で、社員・協力会社の努力と団結力、社会貢献に対する強い気持ちが、震災当日からわずか36時間での応急復旧完成につながったと思います。



主任技術者
 竹中 雅彦

震災発生翌日の夕方、ラジオからは帰宅難民や原発事故など不安な情報が流れ、家族のことも心配で、Uターンしたがる気持ちを押し殺しながら現場に向かいました。現場に到着し、辺りを見渡すと構造物が考えられないほど隆起しており、地震の破壊力を目の当たりにしました。施工前は各箇所の切削の深さが違うことで、合材の種類も異なりました。また、製造所のアスファルト量も震災によって納入の見通しがたないことから、合材量のロスが無いよう打合せを時間が無い中で綿密に行いました。作業は順調に進み、気付けば翌日の午前11時になっていました。昼には他の社員と交代をして現場を後にしました。誰もが家族に対する心配や様々な不安な気持ちがありながらも、任務を遂行する社員とそれをサポートする社員の総合力が今回の早期復旧へ導いたと確信しています。社員の責任感とチームワークに感動したと同時に工事に携わったことに誇りを感じています。



鹿島道路の情報化施工の歩み

情報化施工とは

情報化 (ICT: Information and Communication Technology) 施工とは、情報化通信技術を活用し建設機械を自動制御することで、生産性や安全性の向上、品質の確保を図ることを目的としたものです。鹿島道路では2000年に3次元設計データにより建設機械を制御する、3次元マシンコントロールシステム (3D-MC: 3Dimensional Machine Control System) を業界に先駆けて導入し、全国展開を図るなど「より良いものを、より早く、より安く」提供するための取り組みを続けています。

情報化施工の沿革と取り組み

鹿島道路施工実績件数	鹿島道路の取り組み (赤文字) 国の取り組み (黒文字)	3D-MC制御建設機械 ラインナップの変遷
2000年	3D-MCシステム導入 国交省：情報化施工促進検討委員会「情報化施工のビジョン」	
2001年	3D-MCブルドーザによる実証実験実施	
2002年	日本初の3D-MCブルドーザ本格現場導入	●ブルドーザ
2003年	日本初の3D-MCグレーダ本格現場導入 日本初の3D-MCフィニッシャー本格現場導入	●ブルドーザ ●モータグレーダ ●アスファルトフィニッシャー
2004年		↓
2005年	日本初のmmGPSグレーダ本格現場導入	
2006年	第一回情報化施工研修会 (以後毎年開催)	
2007年	国交省「イノベーション推進大綱」策定	
2008年	国交省「情報化施工推進会議」を設置 国交省「情報化施工推進戦略」の策定	
2009年	日本初の供用高速道路での施工 3D-MCスリップフォームシステム導入 情報化施工が工事成績加点対象へ	●ブルドーザ ●モータグレーダ ●アスファルトフィニッシャー ●スリップフォームペーバ
2010年	3D-MC全国に配置、3D-MC切削機による現場施工 社内開発の転圧管理システム導入 「情報化施工の一般化実用化について」策定「2013年一般化」が明記された	●ブルドーザ ●モータグレーダ ●アスファルトフィニッシャー ●切削機 ●スリップフォームペーバ ●転圧管理システム
2011年	情報化施工推進グループ発足	↓

3D-MC制御建設機械ラインナップ



●ブルドーザ



●モータグレーダ



●アスファルトフィニッシャー



●スリップフォームペーバ

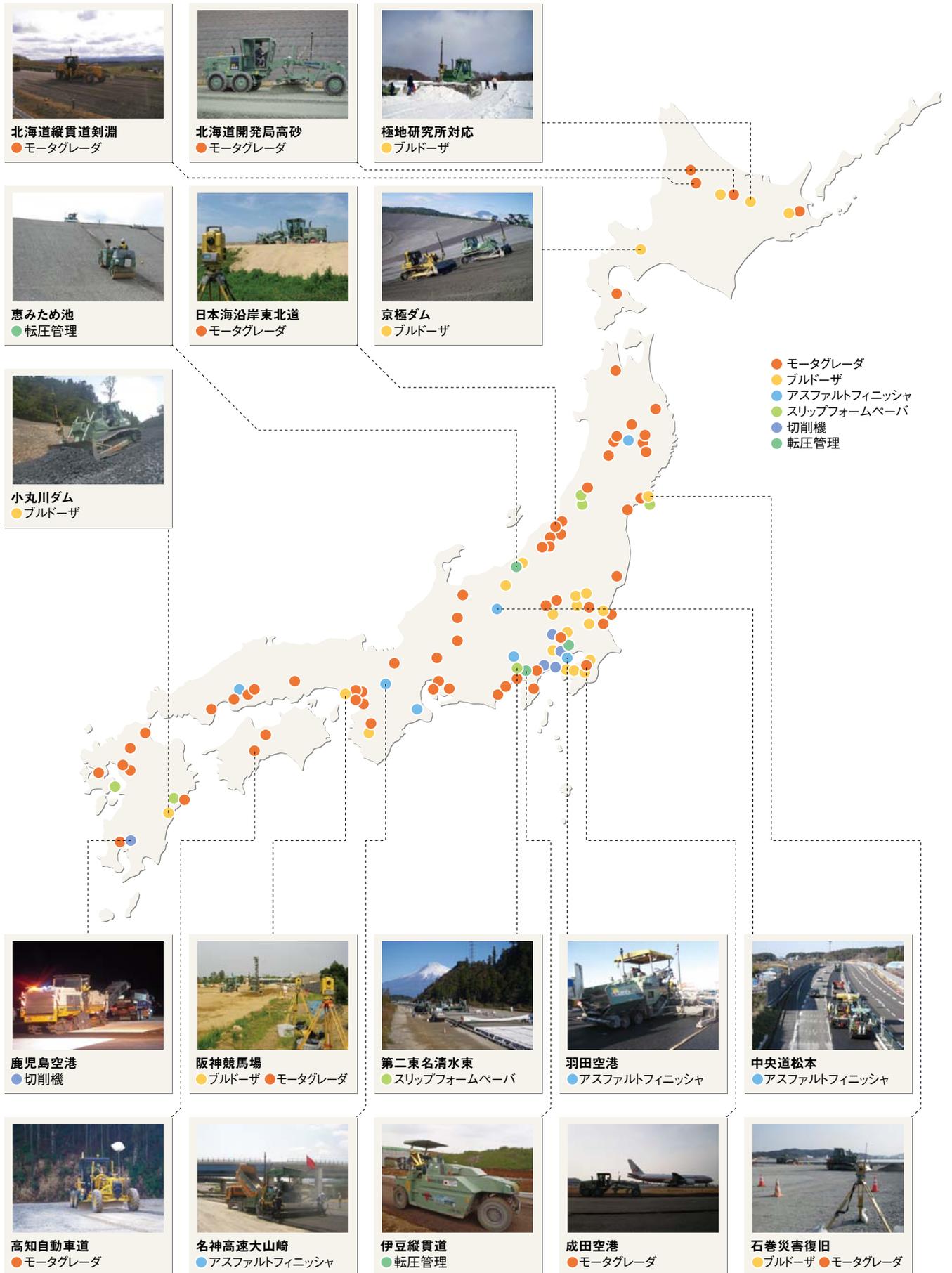


●切削機



●転圧管理システム

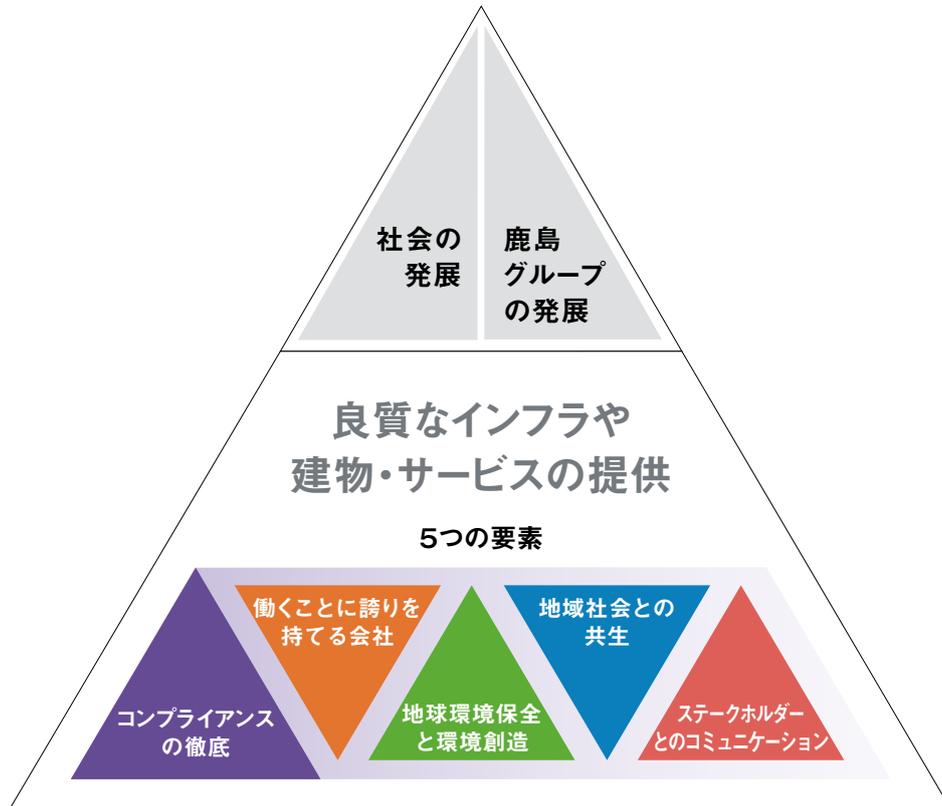
主な施工実績



鹿島グループが実践するCSR

鹿島グループのCSRの枠組み

鹿島グループは、鹿島建設の「社業の発展を通じて社会に貢献する」という経営理念に基づいて「CSRの枠組み」を定め、グループ全体でCSR活動を進めています。



CSRの目的

鹿島のCSRの本質は、社会や時代の要請に応え、公正な企業活動を通じて多様なステークホルダーと良好な関係を築き、保っていくことと考えています。建設業の成果は長い期間にわたって、直接社会や人々の生活を支えるものであり、社会や顧客の持続的な信頼のもとに、社会の持続的な向上と建設業、ひいては当社の安定的な発展を共存させていくことが、鹿島のCSRの実践で目指すものです。

CSRの基本

「CSRの目的」を果たすためには、何よりもまず高い企業倫理と強い使命感に貫かれた誠実な企業であるとともに、たゆまぬ研鑽による高度な技術力をもとに、良質なインフラや建物・サービスを提供し続けることが肝要です。社会や顧客からの信頼の基盤は確かな品質にあります。「良質なインフラや建物・サービスの提供」によって信頼を築き、社会への貢献と、顧客の利便・快適・安心の充足を通じて持続的な評価を受けることが、鹿島のCSRの基本です。

鹿島道路のCSR活動

鹿島道路の企業理念である「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」のもと、公正で開かれた企業を目指し、良質かつ適正な価格で社会資本の整備を担っていく事をCSRの基本としています。

鹿島道路のCSR活動方針

1. 「お客様本位」と「品質本位」を第一義とする
2. 「鹿島グループ 企業行動規範」の順守をすべての企業活動の大前提とする

「CSRの基本」を織り成す5つの要素

コンプライアンスの徹底

建設業界が「貢献度は高いが、好感度は低い」との評価をこれまで受けてきたことは事実ですが、社会や人の生活を支える仕事の責任の重さを考える時、信頼される企業への努力の大切さを改めて認識しています。コンプライアンスの徹底とは、諸法令の遵守は当然として、さらに高い企業倫理に貫かれた誠実な企業を社員一人ひとりが目指すことです。



P.12

働くことに誇りを持てる会社

建設業は、多くの職種の協働会社の人々と一体となって工事の完成を目指して努力しており、まさに一人ひとりの能力が財産と言えます。多くの人々が働く現場が、安全で相互に信頼し合え、かつ私たちの仕事が社会を支えているとの使命感に満ちた「働きやすく誇りある」現場であるよう、環境の整備と意識の啓発に努めています。



P.14

地球環境保全と環境創造

建設業は資源多消費産業であり、自然環境に手を加えることが多い産業です。環境に対しては常に感度が高く、礼儀正しい企業でありたいと思っています。地球環境の保全は「次世代への責務」と考え、顧客への前向きな企画提案とともに、日々の事業活動における環境負荷の低減に注力していきます。



P.16

地域社会との共生

建設業は、工事の近隣を含む地域社会の理解と協力なしには円滑な事業遂行ができません。なお、自然災害大国の日本において、自然災害発生時における主体的役割や備えも建設業に期待されるCSR活動の例です。



P.18

ステークホルダーとのコミュニケーション

建設業界はこれまで社会的使命や日々の事業活動について、必ずしも積極的に社会に対して発信してこなかった部分があります。誠実な情報発信もまた企業への信頼の基本であることをふまえ、社会への関心と貢献に関してもっと積極的かつ熱心に情報発信を行い、多様なステークホルダーとのコミュニケーションを図っていきます。



P.20

鹿島グループ企業行動規範

1 | 公正で誠実な企業活動

- 1 法令の遵守と良識ある行動
- 2 社会のニーズと顧客満足の重視
- 3 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引
- 4 知的財産、その他の権利・財産等の保護
- 5 政治・行政との透明な関係
- 6 反社会的行為の根絶
- 7 企業会計の適正性確保

2 | 社会との調和

- 1 社会との良好な関係の構築
- 2 あらゆる国、地域における文化、慣習の尊重
- 3 適時、適切な開示とコミュニケーション

3 | 人間尊重

- 1 差別や不当な取扱いの禁止
- 2 安全で働きやすい職場環境の確保
- 3 能力、個性を尊重した人事処遇、人材育成
- 4 児童労働・強制労働の禁止

4 | 環境への責任

- 1 環境問題への取り組み

5 | 企業行動規範の運用

- 1 教育と啓蒙
- 2 実効ある社内体制の整備

6 | 違背する事態が発生した場合

- 1 再発防止と説明責任
- 2 厳正な処分

コンプライアンスの徹底

コンプライアンスの徹底 信頼される企業グループであるために

企業には、清く、正しく行動することが、これまで以上に強く求められており、悪いことや失敗がおこらないようなくみづくりが重要になっています。また同時に、自社の行動や内容が外部からよく見える(透明性)、よく伝える(情報開示、説明責任)取り組みも必要になっています。鹿島道路は、全てのステークホルダーの皆様に信頼される企業であり続けるため、鹿島グループの一員としてコンプライアンスを徹底し、リスクを管理しながら業務を適正に遂行するための内部統制システムの整備を推進しています。

コンプライアンス・マニュアルの制定

悪いことをしないしくみの一つが、企業行動規範を作り、全役員・社員に理解と実践させることです。

鹿島道路では、鹿島グループ企業行動規範を採択し全役員・社員に鹿島グループ企業行動規範の記載された小冊子を配布し、2010年初頭には実践の手引きを改定するとともに、通達を発し、イントラにも掲載してコンプライアンス意識の徹底を図りました。

企業行動規範の浸透

鹿島道路では、毎年1回鹿島建設からのeラーニングによる研修で、「鹿島グループ企業行動規範」がどのように理解され、浸透しているかを確認しています。2011年は、1,674名(関連従業員含む)が受講を完了しています。今後も定期的実施する予定です。

談合防止体制の運用強化

鹿島道路では、2007年8月に談合防止体制を整備し、公共工事などにおける入札プロセスの明確化、各段階での決定経緯の記録・保管を義務付けるとともに、社外会合の参加にも一定の制限を設けています。この遵守状況をチェックし、法令違反を疑われる行為を行っていないことを確認するとともに、毎年4月1日付で営業に携わる役員・社員から談合を行わないことの誓約書の提出を求めています。また、毎年鹿島建設で主催する独占禁止法研修会にも営業担当者を対象として出席させて法令順守の意識の啓発を図っています。

協力会社との適切な取引

建設業では、施主から工事を直接発注される元請会社が品質や工程を確保するために工事を管理し、専門職である協力会社に各工程・作業を発注して工事を施工します。適正な施工体制のもとで運営すること、協力会社との契約締結・履行を徹底し、信頼関係を持つことが大切です。取引上の地位を不当に利用し、通常必要と認められる原価に満たない金額で協力会社と請負契約を締結することや、下請代金の支払を遅らしたり、一般の金融機関による割引を受けることが困難と認められる手形の発行を行いません。

反社会的行為の根絶

鹿島グループ企業行動規範において、暴力団対策法等の趣旨に則り、暴力団を始めとする反社会的勢力と一切関係をもたないことを宣言しています。協力会社(数次に渡る場合を含めて)としても一切使用しません。また、「暴力団を恐れない」「暴力団に金を出さない」「暴力団を利用しない」「暴力団と交際しない」の「4ない」を行っています。新たに反社会的勢力対応規程の制定および反社会的勢力対応の手引きを作成し、周知徹底を図っています。

内部通報制度の整備

鹿島道路では、役員、社員などによる法令違反や不正行為の発生(あるいはその兆候)を知った者から直接通報を受け付けるホットライン「企業倫理等通報制度」を整備しています。また、鹿島グループとしての鹿島建設への通報制度も併せて完備しています。

情報セキュリティと企業としての信頼

鹿島道路では、顧客および取引先の信頼を得るため個人情報をはじめとした顧客情報や、企業情報などを保護する目的で「情報セキュリティポリシー」を制定しています。それは情報セキュリティ規程と情報セキュリティ対策行動規範及び情報セキュリティ実施要領によって構成されています。これは、社員が情報資産をどのような脅威からどのように守るかについての基本的な考え方と、情報セキュリティを確保するための具体的な行動を示した規程です。2011年度は、情報セキュリティ対策行動規範及び情報セキュリティ強化対策ハンドブックを改正するとともに、ネットワークを利用したeラーニング及び自己点検を通して、情報セキュリティの啓蒙教育を行いました。また、全社で定期的な情報セキュリティパトロールを実施して、その効果を確認しています。

2011年度の活動内容

- 2011年4月 情報セキュリティ対策行動規範改正
- 2011年6月 情報セキュリティ強化対策ハンドブック改正
- 2011年8月 情報セキュリティeラーニング実施(全社員)
- 2011年9月 情報セキュリティ自己点検実施(全社員)
- 2011年11月 情報セキュリティパトロール実施(支店、営業所)



社員 VOICE



中四国支店
三木 栄作

中四国支店では、リスク管理のために、会社で定められた情報セキュリティポリシー(「情報セキュリティ規程」「情報セキュリティ対策行動規範」「情報セキュリティ実施要領」)に従業員に指導し、セキュリティ強化対策を行っています。鹿島グループで作成した「情報セキュリティ強化対策ハンドブック」を活用し、従業員並びに関連協力会社に対し会議等の機会に教育を行い、情報セキュリティへの意識が浸透するよう訓練を行っています。また、ファイル暗号化ツールやパスワードの使用を推進し、データの保護に努めています。

内部統制への対応

会社法におけるリスク管理

リスクを把握・特定することから始まり、把握・特定したリスクを発生頻度と影響度の観点から評価した後、発生頻度と影響度の積を評価の尺度としたリスクの種類に応じた対策を講じます。また、仮にリスクが実際に発生した際には、リスクによる被害を最小限におさえる措置を講じます。

活動内容

1. 鹿島道路として毎年5月に各部署、各支店、子会社「リスク自己点検実施計画書」を作成し、鹿島建設へ提出している。
2. 計画書に基づき実施した結果を3回/年(9月、12月、3月) 監査室へ提出する。
3. 1月(12月締) 近くに取りまとめた実施記録を経営者に報告の上、鹿島建設に提出する。
4. 実施記録(3月)を取りまとめ「リスク管理委員会」を開催し、取締役会に諮っている。

金融商品取引法における自己点検

全社的内部統制(決算財務・IT 統制・5つの業務サブプロセス)の運用状況の自己点検を実施し、不備事項が発見された場合は、改善確認と再評価を実施します。

活動内容

1. 監査室が各支店(横浜、北陸、合材は除く)の業務プロセスについて自己点検結果に基づき評価をしている。
2. 鹿島建設、監査法人から金商法に関する監査を受け、結果について取締役会に諮っている。

会計業務監査の実施

支店・事業所の監査に加え、本店・子会社の会計業務監査を実施します。(法規・社内規定・ルールへの遵守度をチェックする)

活動内容

期首に計画書を作成し毎月2つのグループに分け規程、ルールからの逸脱がないかどうかを監査し、社長他役員に報告書を提出している。改善を要する点については関連部署にも報告している。

働く事に誇りを持てる会社

人材育成への取り組み

鹿島道路では「人間力」をキーワードとして、人材育成に取り組んでいます。

現代のような高度情報化社会においても、最終的には「人間力」が不可欠であると考え、eラーニングや社外講師による講演会を実施して、「人間力を養う」「人間力を高める」「人間力を磨く」などの視点から研修を行なっています。

また、今後の労働環境の変化も踏まえて、女性社員やシニア世代を対象とした研修を実施していますが、これは女性の清新な発想力・感性やシニア世代の熟達したスキル伝承を通じて会社の総合力を高めることを目的としています。

eラーニングの講座内容（一例）

- マネジメントの基本コース
- 論理的思考力ステップアップコース
- リーダー・マネージャーのための課題解決基本コース
- メンタリング入門コース

社外講師の講演会テーマ（一例）

- 働く女性を取り巻く状況とキャリアプランニング
- シニア世代を取り巻く環境の変化と期待される役割



女子社員研修風景

社員の「心の健康」作り

公私ともに充実した生活を送るためには、「体」の健康と共に「心」が健康であることが重要です。しかし、企業や仕事を取り巻く環境が激変する中で、精神面でバランスを崩すケースが増大しています。当社でも、従業員のメンタルヘルスケアを推進するため、厚労省の指針に従い、下記の施策を2012年4月から順次実施しています。

取り組みの概要

- 社外相談窓口設置
- ストレス診断（職場診断）の実施
- メンタルヘルスやパワハラ・セクハラに関するeラーニング実施
- 専門家による集合研修の実施 等

支店長研修会の開催

鹿島道路では、部下を育てる立場の社員への教育も行っています。2011年9月、支店長研修会を開催し、どのようにして人材を育てるかという内容について活発に議論を行い、社外講師を招き「コミュニケーションの取り方」について講義を受けました。



研修風景

社員 VOICE



北日本支店

杉山 幸子

勤務部署 仙台営業所管下石巻出張所
担当業務 出張所事務全般

震災時での冷静沈着な行動により 2011年度社長表彰受賞

大震災に遭遇して

2011年3月11日14時46分、石巻出張所にいた私は、「この揺れに終わりは来るのか」と不安になるほど、長くて大きな地震に遭遇し、その数十分後には、想定外の津波に追われながら、必死の思いで近くの学校に避難しました。その後の日常生活・仕事においては「不自由」という言葉がついてまわり、何事にも耐え忍ぶという日々を送っております。

今後の意気込み

震災直後から、全国の皆様からの多大なるご支援をいただき、感謝の気持ちと共に繁忙を極める仕事を頑張ることによって、皆様に御恩返しができるのではないかと考え、苦難に立ち向かっていこうと思っております。

死亡・重篤・重大災害ゼロを目指して

2011年度は、目標である死亡・重篤・重大災害0件、度数率1.0%以下、強度率0.02以下に対して、実績は死亡・重篤・重大災害0件、度数率0.96%、強度率0.02という結果となり、目標を達成しました。当社は安全衛生方針に則り、様々な安全活動に取り組み、災害発生防止に努めています。

1. 安全衛生・環境関係法規及び会社方針、社内基準等を順守しあらゆる違反行為をなくす
2. 労働災害防止運動を積極的に推進し、継続的施策により、施工と安全の一体化を積極的に図り、災害・事故の三要因（人的・物的・管理的要因）を排除する
3. 真の原因究明と要因の背景を顕在化し、繰り返す類似災害の再発を防止する
4. 環境法令順守の指導強化と継続的教育を実施し、適正契約とマニュフェスト管理及び現場での廃棄物の分別を徹底する

2011年度目標値と実績及び活動実施状況

目標を達成しました		目標	実績
死亡・重篤・重大災害	0	0	
度数率	1.00以下	0.96	
強度率	0.02以下	0.02	

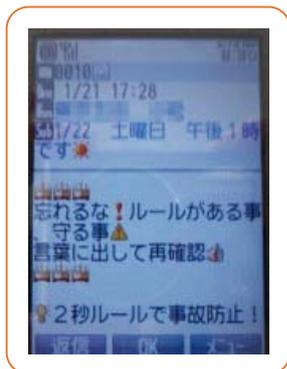
重点課題	実施項目	実施計画	実施状況	記事
教育の充実による災害事故予防	各種教育	27回/年	28回	職長・統括・周知会・環境教育
定期的現場点検・継続指導	安全環境ハトロール	150現場/年	164現場	①6-7月 ②9-10月 ③12-1月 ④3月
再発防止	災害事故事例の展開		106事例 内他社事例 21	HPIに掲載(他社事例含む) (リスクアセス対象外)
副産物の適正処理	教育	27回/年	28回	職長・統括・周知会・環境教育時に実施
	ハトロール	50現場/年	47現場	①6-7月 ②9-10月 ③12-1月 ④3月に実施

安全活動への具体的取り組み事例

各支店では、災害事故防止のための様々な取り組みを行っています。

「安全意識を刺激する言葉」を携帯電話に一斉送信

毎週金曜日・土曜日を安全意識高揚の日として、支店より現場担当者全員に「安全意識を刺激する言葉」を携帯電話に一斉送信を行っています。



バックセンサーと巻き込まれ防止ガード併用による安全施工

重機の作業範囲内は作業員との接触による災害事故が発生しやすいことから、音によって作業員に知らせるバックセンサーを重機に取り付け、更にタイヤローラのタイヤで作業員を巻き込まないよう巻き込まれ防止ガードを装着し、二重で災害事故を防止するよう努めています。



重機作業における危険予知訓練

安全訓練で重機の死角や作業半径、誘導者の配置箇所、コンバインドローラーでの事故事例の検証を行い、実際に体験し確認することで安全作業に役立てています。



社員 VOICE



生産技術本部 海外事業部

嘉藤 行成

出向先 現地法人 KRO Co., Ltd
タイ王国 バンコク都内
家族帯同（妻と愛娘）

タイの大洪水にも負けず、社会に貢献

2011年に日本では大災害が発生しましたが、タイでも未曾有の洪水が発生しました。そのような逆境下でも、両国間の心温まる支援や交流を目の当たりにし、この心の繋がりと感謝の気持ちを忘れることなく、これからも海外諸国の誰もが豊かさを共有できる社会貢献をしていきたいと思えます。

地球環境保全と環境創造

地球温暖化防止への貢献

燃料の都市ガス化によるCO₂削減

成田合材製造所ではアスファルト合材の製造過程において主に生じる二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するため、燃料を重油から都市ガスに切り替えることによって環境負荷低減に取り組んでいます。



成田合材製造所 ガスバーナー



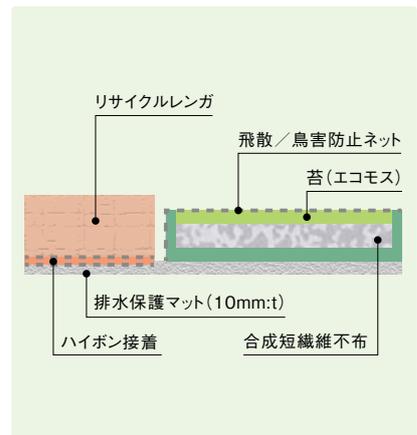
成田合材製造所

2011年製品事業部門実績

製品事業部門	CO ₂ 発生量	71,600(t-CO ₂)	
成田合材製造所	CO ₂ 削減量	1,140(t-CO ₂)	1.6% 削減

コケによる屋上緑化システム

当社は、建築した商業ビルにおいてコケによる屋上緑化システムを施工しました。屋上温度が抑えられ、空調の省エネ効果の向上、ヒートアイランド現象の緩和に一役かっています。また、日本の気候にあうコケを使用したことにより定期的な灌水や施肥、除草、刈込が不要になり、さらにシステムが軽量であるので構造的な負担が軽減され、イニシャル及びランニングコストへの経済的な効果も期待できます。



新中温化剤(粘弾性調整系)の開発

中温化舗装は、低炭素舗装の一つとして世界中で高まりつつあり、最近では2010年2月に中温化アスファルト混合物が、グリーン購入法に基づく「環境物品等の調達に関する基本方針」に定める特定調達品目に追加され、今後、ますますの活用の促進が期待されています。

当社においては、2000年1月にプラントミックスタイプの発泡系中温化剤を製品化し、現在までに数多くの施工実績を有していますが、今回、新たにプレミックスタイプ(粘弾性調整系)の中温化剤を開発しました。

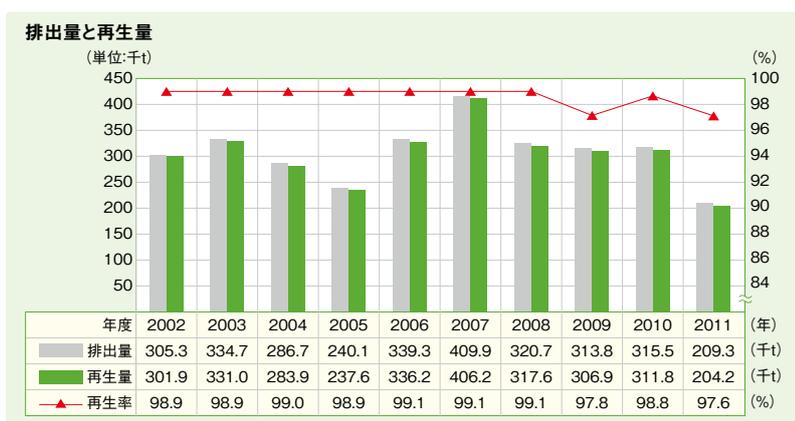


施工状況

新中温化剤の特徴

- ①従来品(発泡系)は、混合物製造時に中温化剤をミキサーに投入する手間等が発生していたのに対し、新中温化剤はプレミックスタイプであるため、アスファルトプラントでの投入手間等が省けます。
- ②従来品は発泡の持続性(時間的制約)の観点からサイロ貯蔵が困難でしたが、粘弾性調整系であるためサイロ貯蔵が可能です(7時間までは室内で確認しています)。
- ③バージン、リサイクル合材を問わず、中温化剤の添加量を変化させることで、温度低減(30℃低減)および施工性改善の用途に適用可能です。

産業廃棄物排出量と再資源化(再生)率



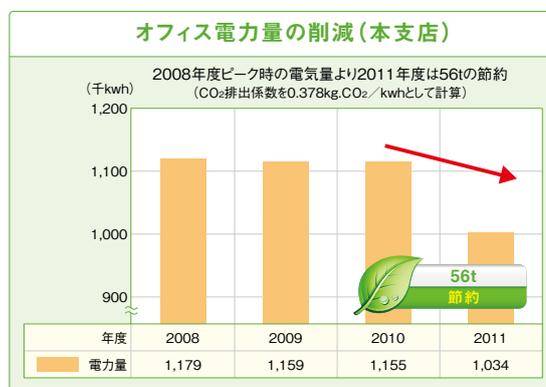
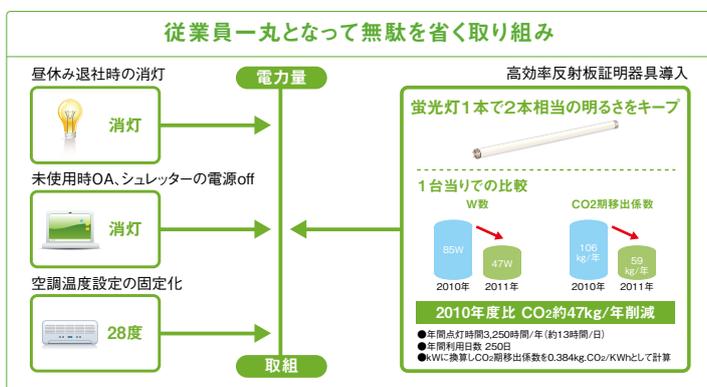
鹿島道路では廃棄物を「少なくする」(Reduce)、「そのまま使えるものは使う」(Reuse)、「手を加えて再生使用する」(Recycle)の3Rを実施しております。2011年度の産業廃棄物排出量は209.3千トン(左図)で、その内アスファルトコンクリート塊とコンクリート塊が全体の約9割を占めており、それらの再生使用率は97.6%です。

オフィス環境負荷低減活動の実施

鹿島道路では、毎年新しい価値創造に挑戦し、限られた資源の有効活用を実施し、人と地球の豊かな快適な環境づくりに貢献することを企業理念としております。

電気量節約に伴うCO₂削減

オフィス環境においても、2011年、事業所の固有活動として省エネ、コストダウン、CO₂排出量削減に貢献する高効率反射板照明器具を本店及び東京支店に導入しました。これは通常の蛍光灯1本で2本相当の明るさをキープするもので電気使用量を大幅に削減でき、CSRの一環として環境負荷低減活動に効果的であると考えております。2011年度鹿島道路では以下のような取り組みを実施しました。



環境マネジメントシステムの目標と実績

😊 達成 😊 概ね達成 😞 未達成

	項目	2011年度目標	評価	2011年度実績
施工(土木)	地球温暖化防止への寄与、CO ₂ 発生量の削減	CO ₂ 削減率 標準算出量から2.0%削減	😊	CO ₂ 削減率 標準算出量から4.2%削減
施工(建築)	廃棄物の増加抑制、混合廃棄物の削減	5.74t/億円	😊	3.90t/億円
製造	再生骨材使用率の向上	2009年度比2.0%増	😊	2.5%増
	CO ₂ 発生量の削減、製造量1t当たりのCO ₂ 発生量の削減	2009年度比2.0%削減	😊	9.3%削減
設計	環境に配慮した設計の推進	4件	😊	4.8件
開発	環境関連技術の開発推進、2010~2012年度までの累計完成開発件数	2件以上	😊	3件
オフィス	事業所の固有活動によるCO ₂ 削減(照明器具)	2t/年	😊	13t/年
営業	土壌浄化工事の受注による環境負荷の低減、土壌浄化工事の受注件数	40件/年	😊	39件/年

地域社会との共生

地域社会貢献

保育所から感謝状

北海道営業所では、工期中の安全対策に理解と協力をしていただいた、沿道の保育所の職員や父兄の皆様に感謝し、60冊の絵本を寄贈したところ、後日、保育所からその善意に対し、感謝状が贈呈されました。



除雪

2012年初め日本列島は記録的な豪雪に見舞われ、観測史上最高の積雪量を記録した地区や、自衛隊の災害派遣を受けた地域などもありました。そのような中、当社も昼夜を問わない懸命な除雪作業によって地域住民の方の生活と安全を守りました。



地域イベントへの参加



社員 VOICE



現場代理人
芝本 直己

絵本寄贈に至った経緯

工事区間沿線の保育所に行った際、楽しそうに絵本を読んでいる児童を拝見しました。工事が無事完成し、工事に対する理解と協力していただいた職員や父兄に感謝気持ちを込め、児童が一番楽しみにしている絵本を寄贈する運びになりました。

寄贈した時の感想

絵本を手渡した時に児童から「ありがとう」と言ってもらいました。この一言が現場で苦勞した事は無駄では無かったなと思えた瞬間でした。この出来事を忘れず地域の皆様と共に業務に取り組んでいきたいと思ひます。

ちびっこサッカーを主催

北海道営業所が中心となって「小学校3年生になるまでサッカー大会に出場できない」という声をきっかけに、2年生以下を対象とした「ちびっこサッカーフェスティバル」を開催しています。この大会は、2002年に札幌近郊の8チームでスタート、第10回となる2011年の大会には、道内各地から24チーム約323選手が出場しました。

舗装工事見学会を開催

宮崎10号中原・五十町地区舗装工事、3D-MC(3次元マシンコントロールシステム)の見学会が行われました。本システムの宮崎県での使用事例は当現場で3件目となり、高い施工精度を証明してきました。そこで、宮崎県立都城工業高校の生徒方をはじめ多くの方々に最新舗装技術の3D-MCグレーダシステムを知っていただきたく、今回の見学会を実施し、後日同校よりお礼状が届きました。



特殊技術講習会の実施

群馬県の前橋工科大学において、群馬県小規模橋梁再生研究会が主催する橋梁補修コンクリート講習会が開催され、当社は道路橋RC床版の損傷補修と長寿命化に寄与する「KSボンド」を用いた部分補修などの床版補修技術について説明を行ったほか、実技時間では、供試体の制作及び強度試験を実施しました。



小樽雪あかりの路へ参加

小樽市勝納川左岸で開催された「第十回勝納川雪あかりの路」で、バケツとシャベルを使い、大人から子供まで参加し、1,500個のスノーキャンドルを作成しました。勝納川左岸の400m区間の他、当社敷地内にもキャンドルを設置し、幻想的な雰囲気醸し出しました。

ステークホルダーとのコミュニケーション

社会へ、お客様へ

第29回日本道路会議

2011年11月1日～2日まで、都市センターホテルにおいて、第29回日本道路会議が開催されました。日本道路会議は、道路の行政、建設、維持管理、都市計画および道路交通に取り組んでいる全ての研究成果を発表し、意見を交換するわが国最大の会議であります。

本会議では、400件強の論文が発表され、当社東京支店金井利浩部長(受賞当時 技術研究所室長)が発表した「ホイールトラッキング疲労試験における破壊回数のラーソン・ミラー法による推定」が優秀論文賞を受賞しました。

会議の期間中、当社はヒートスティック工法、SFRCボンド補強工法の展示ブースを設けました。これから就職活動を行う学生の方々に興味を持っていただき、東日本大震災の復興を担う道路会社の必要性を感じていただけたものと思います。



社員 VOICE



東京支店

金井 利浩

日本道路会議は、舗装をはじめ道路全般に関する調査や研究等の報告が行われる歴史のある会議です。今回、アスファルト舗装の層間すべりによるひび割れの評価に関する研究で優秀論文賞をいただき、大変光栄に思います。近年、舗装ストックの増大に伴い、破損や補修に関する検討の必要性は益々高まっています。今後も当社の豊富な舗装技術を生かし、安全かつ快適な道づくりに貢献していきたいと考えています。

3D-MCコンクリートスリップフォームペーパーの情報化施工見学会を開催

2011年11月18日、九州地方整備局雲仙復興事務所発注の「長崎251号眉山トンネル舗装工事」の現場において、情報化施工見学会を雲仙復興事務所他2者と共催しました。



全国各地で技術フェアに出展しています

2011地球環境保護土壌・地下水浄化技術展

期間 8/31～9/2 会場 東京ビックサイト
展示物 ソレック栃木

建設リサイクル技術展示会

期間 10/26～27 会場 JRさいたま新都心駅改札前コンコース
展示物 ヒートスティック工法

建設技術フェア

期間 10/26～27 会場 国土交通省中部技術事務所
展示物 SKS工法、ミデアミックス

ハイウェイテクノフェア

期間 10/27～28 会場 東京ビックサイト
展示物 ヒートスティック工法、LLライン、高強度PRC版工法、SFRCボンド補強工法、ミデアミックス

けんせつフェアin北陸2011

期間 11/4～5 会場 新潟市産業振興センター
展示物 SKS工法

建設技術フォーラム2011in広島

期間 11/25～26 会場 広島県立産業会館
展示物 ヒートスティック工法、ミデアミックス



北日本支店・中部支店が 「工事成績優秀企業」として表彰されました

北日本支店と中部支店が、国土交通省東北地方整備局と中部地方整備局からそれぞれ過去2ヶ年に完成した工事の成績評定が優秀であると認められ表彰されました。



北日本支店



中部支店

キリンビール取手工場より感謝状

震災後2週間ほどでキリンビールが補修の計画を立て、工場の建物やビール工場のプラント修理と外構工事を振り分け、工場の再建を目指しました。当社は年間を通して構内の舗装や排水関係の補修を行っており、震災復旧では特に出入り口に段差が出来ていたため、ビン製品が壊れないよう4月上旬から対応しました。工場内の早期復旧に貢献したことから、感謝状をいただきました。

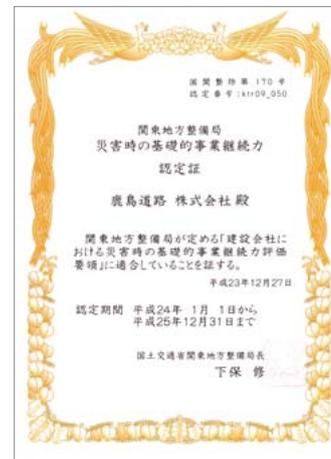


国土交通省関東地方整備局より 「建設会社における災害時の基礎的事業継続力認定」を受けました

「建設会社における災害時の基礎的事業継続力認定」は、大規模災害時での対応業務の円滑な実施と地域防災力の向上を目的とし、関東地方整備局が建設会社の基礎的事業継続力について、評価要領に基づき適合した会社を認定し、公表するものであります。認定を受けた会社は、災害時における地域貢献などの社会的評価や信頼性の向上につながると考えられています。

この度、当社は評価項目である「重要業務の選定と目標時間の把握」「災害時の対応体制」「対応拠点の確保」「情報発信・情報共有」「人員と資機材の調達」「訓練と改善の実施」について適合の評価を得ました。

「災害時の基礎的事業継続力を備えている建設会社」として、2年間(2012年1月1日～2013年12月31日)の有効期限をもつ認定証が交付されました。



技術誌「KIT」の発行

技術誌「KIT」を発行し、ステークホルダーへ当社の技術、施工実績、施工現場での安全への取り組みなどの情報を発信しています。



社外ホームページからの情報発信

ホームページ (<http://www.kajimaroad.co.jp/>) から会社情報ははじめ、技術や施工実績などを公開し、タイムリーに情報をお届けするよう努めております。また、皆様からの施工や技術などについて幅広くお問い合わせを受け付けております。



第三者意見

CSR レポート発刊によせて



溝呂木 敦
Atsushi Mizoroki

略 歴

ソブリン・コンサルティング株式会社 代表取締役
インプレッション株式会社 取締役
Certification International(UK) Limited - Executive
Corporate Adviser
CFE 公認不正検査士
CCSA 内部統制評価指導士

リスクマネジメントベースの企業経営に関する専門家として、事業運営、製品開発、製造、リソース管理、サービス、コンプライアンス、環境対策、IT/セキュリティ対策、エンパワメント、倫理行動、法務、業事、国際事業などの分野に“システム”(=仕組み)を導入することで、成長促進とCSRの実現に向けて多くの企業をサポートしている。

今年のCSR報告書は、震災復興に携わった従業員の方々が従来以上に顔の見える存在として制作されており、読みやすさに加えて事業活動を身近に感じることが出来るように工夫されています。

震災復興関連の取組みと情報化施工についての特集化など、誌面の制約がある中、記事の取捨選択をしっかりとすることで“伝えたいこと”を具現化する点は目的を達成していると言えます。

また、道を繋ぐことが社会基盤を維持する上でいかに重要であるか良く伝わるものになっており、貴社の事業が持つ社会性・公共性をとてもの確にまとめています。

内部統制への対応部分などを初めとして、活動内容の箇条書き化によって、ポイントが掴みやすいものとなっていることも特筆される点であり、今後もこうした報告手法を誌面全体に採用することが好ましいと思います。

一方、編集方針とメリハリをきかせた記事選定の結果、報告事項から漏れる部分が多くなっている点は否めません。誌面の制約から記載しきれない面が出るのは致し方ないところですが、編集に際して採用した国際的・国内的基準が明示されていない事からも、開示性のバランス面については今後の改善を期待します。

特に、「環境報告書」として報告事項をカバーする上で、今後HPを活用するなどの工夫は必須と言えるでしょう。

第三者意見を受けて



代表取締役副社長

石川 誠一

溝呂木先生、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

今回のCSR報告書2012では、東日本大震災の復興への取り組みを中心として、当社のCSR活動をステークホルダーの皆さまに分かり易くお伝えしていくことに努めてまいりました。

溝呂木先生よりご指摘いただきました点を活かし、今後の鹿島道路のCSR活動をさらに充実させるとともに、企業理念のもと、社会からより信頼される企業を目指して取り組んでまいりたいと思います。

会社データ

コーポレートデータ

商号	鹿島道路株式会社
設立	1958年2月18日
所在地	〒112-8566 東京都文京区後楽1-7-27 TEL 03-5802-8001
資本金	40億円
従業員数	988名
事業内容	1.道路、滑走路等の舗装工事、防水工事、スポーツ施設、レジャー施設の建設工事及びその他の土木、 建築工事の請負または受託 2.前号各工事の調査、企画、設計、監理及び技術指導の請負または受託 3.建設用資材の製造及び販売 4.建築工事に使用する機器及び機械装置の設計、製造、販売及び賃貸 5.一般廃棄物、産業廃棄物の収集、運搬、処理、資源再利用、建設資材の再生品の販売、 環境汚染物質の調査、除去及びこれらに関するコンサルティング並びに電力・熱エネルギーの小売事業 6.土地の造成、不動産の売買、仲介、賃貸借および管理 7.道路他公共施設並びにこれに準ずる施設の企画、建設、維持管理及び受託 8.労働者派遣事業 9.前各号に関連または附帯する一切の事業

支店一覧

北日本支店	〒980-0802	宮城県仙台市青葉区二日町2-15 二日町鹿島ビル	022(216)8501
北海道営業所	〒006-0033	北海道札幌市手稲区稲穂3条3-9-15	011(699)7744
関東支店	〒330-0063	埼玉県さいたま市浦和区高砂4-6-9 鹿島浦和ビル	048(872)8001
東京支店	〒112-8566	東京都文京区後楽1-7-27	03(5802)8021
横浜支店	〒220-0001	神奈川県横浜市西区北軽井沢63	045(312)8061
北陸支店	〒950-0986	新潟県新潟市中央区神道寺南2-6-15	025(243)3851
中部支店	〒460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-10-13 SC錦ANNEX 2階	052(204)0770
関西支店	〒540-0001	大阪府大阪市中央区城見2-2-22 マルイトOBPビル9F	06(6910)3701
中四国支店	〒730-0037	広島県広島市中区中町6-13 鹿島建設ビル2F	082(247)1851
四国営業所	〒761-8041	香川県高松市檀紙町1241-1	087(885)5800
九州支店	〒812-8665	福岡県福岡市博多区博多駅前3-12-10 鹿島建設ビル	092(451)4356



鹿島道路株式会社 経営企画部
〒112-8566 東京都文京区後楽1-7-27 03(5802)8003
<http://www.kajimaroad.co.jp/>



ISO認証登録

お客様のニーズを反映し、資源の有効利用・環境保護に配慮した、地球に優しい商品を提供します。

